

在海拉爾領事館 同  
 在「モシクト」公使館 同  
 在開島總領事館圖們 同  
 分館 同  
 在哈爾濱總領事館佳 同  
 木斯分館 同  
 御眞影奉戴(在外指定學校ノ部) (自昭和十二年十二月三十日)  
 奉戴 年 月 日  
 錦州高等女學校 天皇皇后陛下 昭和十二年四月二十四日奉戴  
 同 日本小學校 天皇皇后陛下 同  
 新架櫻木小學校 同 十一月一日奉戴  
 第三項 御眞影奉還 奉還 奉還  
 一 公使館、領事館、支那事變ニ付奉還セル在支帝國公館ニ奉安ノ御眞影  
 在 西 公 使 館 明治天皇御眞影外五葉 昭和十一年十二月十六日

在「ケレブタウン」領事館 皇太后陛下御眞影外一葉 同 十二年八月四日  
 在「ポーランド」大使館 天皇陛下候調製御眞影外四葉 同 九月六日  
 第三項 支那事變ニ付奉還セル在支帝國公館ニ奉安ノ御眞影  
 御眞影 奉還 奉還 奉還  
 公使館名 領事館名 支那事變ニ付奉還セル在支帝國公館ニ奉安ノ御眞影  
 在上海總領事館 天皇皇后陛下 昭和十二年八月十四日大使官邸ニ奉還  
 在青島總領事館 同 九月八日本省ニ奉還  
 在濟南總領事館 同 同  
 在漢口總領事館 同 九月六日本省ニ奉還  
 在福州總領事館 同 八月二十二日臺灣總督府ニ奉還  
 在廣東總領事館 同 同  
 在南京總領事館 同 九月六日本省ニ奉還  
 在廈門總領事館 同 八月二十九日臺灣總督府ニ奉還  
 在芝罘領事館 同 八月三十三日關東州廳ニ奉還  
 在蘇州分館 同 九月六日本省ニ奉還



在希臘公使館ノ分 在伊大使館へ奉遷  
 在末蘭領事館ノ分 在佛大使館へ奉遷  
 在里昂領事館ノ分 在佛大使館へ奉遷  
 在營口領事館ノ分 在奉天總領事館へ奉遷  
 在鄭家屯領事館ノ分 在奉天總領事館へ奉遷  
 在頭道溝分館ノ分 在間島總領事館へ奉遷  
 日本海第九款 國書及御親書  
 中國使本第一項 奏請セル國書類 (自昭和十二年十二月三十一日)  
 大公使御信任狀 二八  
 同 御信任狀 二六 (御下付二二)  
 名譽領事御委任狀 六  
 外國領事御認可狀 二〇

同 文部省 證認狀  
 第三項 西班牙國大統領領事就職報道公親書ニ對スル御答翰捧呈見合  
 西班牙國大統領領事ニ對シテ、アサニニヤ、デアス」閣下ヨリ其ノ就職ノ次第ヲ、天皇陛下へ報  
 道セルルル一九三六年九月六日附親書ニ通、天皇陛下へ捧呈方在本邦西國臨時代理公使ヨリ一  
 三七年五月三日附書翰ヲ以テ依頼アリタルニ付早速捧呈方取計ヒ置キタル處之ニ對シ六月七日附  
 以テ御答翰御發送アラセラルルニ付同月十四日在野矢野公使ニ之ヲ轉送シ(クローリエ)便ニ  
 依ルニ適當ナル機會ニ於テ最モ安全ナル方法ニ依リ捧呈方訓令シ置キタル而シテ右御答翰ハ九月  
 二十日同公館滞在タル佛國「サン、ジャン、ド、リズ」ニ到着セル趣ニテ同公使ヨリ同政府  
 又ハ館員「バレンシア」ニ出張捧呈シ度旨申越アリ直ニ之ヲ許可シ置キタルモ其ノ後西國政府  
 ハ「バルセロナ」ニ移轉シ同政府トノ交渉進捗セザリシ趣ニテ飛行便アリ次第高田通譯官ヲ派遣  
 シ度旨十月十三日同公使ヨリ申越アリタリ、然ルニ帝國政府ニ於テハ既ニ「フランコ」政府ヲ承  
 認セントシ居リ、右御答翰ヲ捧呈セシムルコトハ聊カ矛盾ヲ生スルカ爲(御答翰ニハ諸外國大統領  
 領ニ對セラルル所同様「茲ニ閣下ノ就職ヲ祝スルト共ニ貴我兩國間ニ存在スル友誼ノ層層鞏固親  
 密ヲ加フルコトヲ確信シ併テ閣下ノ幸福ト貴國民ノ繁榮トヲ祈ルヒトアリ)折角御發送アラセ



昭和十一年天長節ニ於テ、國大統領ヨリ御祝電無カリシニモ拘ラス同年九月十八日同國國祭日ニ於テ御祝電御發送アラセラルル處本年天長節ニモ同國大統領ヨリ御祝電無カリシ爲メ本年同國國祭日ニハ御祝電御發送アラセラルルニモ及ハサルハシト思考スル旨式部職外事務ヨリ申越アリタルニ付同感ナル旨回答シ置キタリ仍テ式部職ニ於テ本年「ナリ」國國祭日ニハ御祝電ヲ奏請セラルコトニ決定セリ

第十一款 菊御紋章使用ニ關スル注意

○菊御紋章使用ニ關スル件 (外務大臣發在外各公館長一〇三號) 昭和十二年六月二十四日附人機密第一六二號

本件ニ關シ在海拉爾後藤領事ヨリ別紙甲號寫ノ通申越アリタルニ付今般別紙乙號寫ノ通訓令シ置キタルニ付委細右ニテ御承知相成度此段申進ス

本信宛先 在外各公館長

儀禮軌範第十五節第三項ニ於テ使用セラレツアル菊花御紋章入り用紙類ノ範圍ハ列舉

シタル處在外公館ニ於テ公館長ノ發スル天長節祝賀會ノ招待狀ニ菊花御紋章入り用紙ヲ使用シ來レル慣例アリテ當館ニ於テモ別添ノ如キ用紙ヲ用ヒタルニ對シ或ル方面ヨリ菊御紋章ハ取締ニ觸ルルコトナキヤトノ注意アリタルカ各公館ニ於テ天長節祝賀會招待狀ニ限リ從來ヨリ之ヲ用ヒ來レル其ノ根底即チ宮内省ヨリノ許可アリタルモノナリヤ或ハ之ヲ以テ領事ノ公文紙トシテ認メタルモノナリヤ其ノ邊ノ處明瞭ナラサルニ付小當心得迄ニ何分ノ儀御指示相仰度

此段稟請ス

在滿參事官

乙

○菊御紋章使用ニ關スル件 (外務大臣發在海拉爾後藤領事一〇三號) 昭和十二年六月二十四日附人機密第一六二號

本件ニ關スル松本人事課長宛客月三日附機密第一六二號貴信ニ依レバ貴館ニ於テモ從來ノ慣例ニ依リ天長節奉祝宴會ノ招待狀ニハ十六葉八重表菊御紋章入り用紙ヲ御使用相成居ル趣ノ處右御紋章ハ「天皇太后皇后皇太子皇太子妃」紋章トシテ皇室儀制令第十三條ニ定メラレ居ルモノニシテ特ニ許サレタル場合ノ外之ヲ使用シ得サル次第ナリ。然ルニ外務省下シテ在在外帝國公館ノ門頭ニ掲出スル爲メ十六葉菊御紋章使用方ニ關シ正式ニ宮内大臣ノ同意ヲ得アル外其ノ他

本場合ニ於テハ菊御紋章使用方ニ關シ特ニ御許可ヲ得タルモノアリヤ否ヤ書類ノ微スヘキモノ無ク多分從來ノ慣行ニ依リテ使用シ來リタルモノト存セラルル而シテ本省ニ於テ右御紋章入用紙ヲ使用スル場合ハ御親書圖書類ノ外對外的ニ重要ナル意味ヲ有スル文書ニ限ラレ居ル處ハ儀禮軌範第一二二頁記載ノ外務省ニ於テ使用シ居ル菊御紋章入用紙類目錄中ハ移民運送許可證用紙ニハ爾今菊御紋章ヲ使用セザルモノトセリ在外帝國公館長ニ於テ其ノ招待狀ニ獻立表ハ又ハ食器等ニ菊御紋章ヲ使用スルモノハ穩當ナラサルニ付貴官招待狀ニ菊御紋章入用紙ヲ使用セザルモノトハ爾今全然之ヲ廢止セラルル様致度。

尤モ貴官下シテ何等カノ紋章ヲ使用セラルル必要アル場合ニハ今日ノ所帝國政府又ハ外務省ヲ表示スヘキ一定ノ紋章無キカ爲目下折角研究中ナルモ差向桐章ヲ使用セラルルコト可然又右桐章ニモ五三、五七等アリ其ノ圖形一定シ居ラサル處右ハ五七ノ桐トシ大體ニ於テ動七等青色桐葉章ノ形態ニ依ラザルモノト可然ト被存ニ付此段併セテ申進ス

本信寫送付先ニ在在外各公館長ニ付此段併セテ申進ス

○菊御紋章使用ニ關スル件 (外務大臣發在在在外各公館長知照) 昭和十二年八月三十日附機密令第三〇五號

本件ニ關シ在在在外各公館長ニ付此段併セテ申進ス

二四〇

回答致置キタルニ付委細別紙ニテ御承知相成度此段御參考迄申進ス

○菊御紋章使用ニ關スル件 (在在在外各公館長知照) 昭和十二年七月二十九日附機密令第二六六號

本件ニ關シ本年六月二十四日附人機密第一〇三號貴信御訓令ノ趣敬承然ルニ當館ニ於テハ從來別添ノ加キ十六葉八重表菊御紋章ヲ附シタル館印ヲ使用(押型館印ハ外國語ニ依ル公文書ニノミ使用)シ居レル處右ハ帝國政府在外公館館印ナルヲ以テ差支ナキモノトハ思考セラルルモ爲念右ニ關シ何分ノ儀御指示相仰度此段申進ス

○菊御紋章ニ關スル件 (外務大臣發在在在外各公館長知照) 昭和十二年八月三十日附機密令第九八號

本件ニ關シ本年七月二十九日附機密第二六六號ヲ以テ御申越ノ次第承、然ルニ從來本省ニ於テハ慣例上貴館同様に添ノ如キ菊御紋章ヲ入レタル一種ノ官印ヲ歐文文書、旅券等ニ押捺シ居ル次第ナルニ付(儀禮軌範第一二二頁外務省ニ於テ使用シ居ル菊御紋章入用紙一四、封緘用紙ニ付)トハ右官印ヲ意味ス。貴館ニ於テモ本件館印ハ從前通使用セラレ差支無キ儀ト御承知相成度此段申進ス

第十三款 秩父宮同妃兩殿下歐米各國御旅行

一、歐洲大陸ニ於ケル御旅程

二四二



然トノ事ナリ右ノ次第ニテ遺憾ナカラ此ノ際御訪問御旅行ハ全部御取止ノ已ム無キニ至レ  
 リ  
 其ノ後兩殿下ニハ御健康次第ニ御回復遊ハサレ八月十三日海牙御出發瑞西ニ向ハセラレ同十四  
 日「グリーンデルワルド」ニ御安着遊ハサレタリ、其ノ後同地ニ於テ御静養ノ上「カナダ」御經  
 由御歸朝ソコト成レリ  
 四、獨逸國御訪問  
 曩ニ秩父宮同妃兩殿下歐米御旅行ノ儀勅許相成タル旨公表セララルヤ二月五日日本邦駐獨逸國  
 大使「フォン・デルクセシ」ハ宮内省式部職山縣外事課長ニ對シ「ヒットラー」宰相ハ今般兩殿  
 下御渡歐ニ際シ獨逸國ヲモ御訪問アラセラレンコトヲ希望シ其ノ節宰相ソ賓客トシテ御款待申  
 上度意向ナル旨申出タルガ爲同外事課長ハ翌六日殿下ノ命ヲ奉シ同大使ニ對シ殿下ニハ宰相ノ  
 厚意ヲ感謝遊ハサルモ御旅程ハ御着英ノ後御決定相成ヘキニ付今日ノ處御確答ハ御留保遊ハ  
 サレナルヲ得サル次第ナル旨ヲ傳フルト共ニ愈獨逸國御訪問ノコトトモ相成テハ在獨帝國大使  
 ニラ通シ獨逸國政府ニ通報スヘキ旨回答セル趣ナルカ其ノ後三月勿々松平宮内大臣ハ獨逸大使ニ  
 對シ改メテ宰相ノ好意ニ對スル殿下ノ御謝意ヲ傳フルト共ニ御旅程ハ御着英後御決定ノコトト

成リ居ルモ多分獨逸國ヲモ御訪問遊ハサルヘク唯殿下ニハ全然非公式且「クアイエット」ニ御見  
 學御旅行アラセラレ度御内意ナル旨ヲ述ヘタル趣ナリ  
 乍併前記ノ通兩殿下ノ歐米御旅行ハ全然御中止アラセララルコトニ決シタルガ爲獨逸國御訪問  
 ノ儀モ自然御取止ヲト相成タル次第ナリ獨逸側ニ於テハ豫メテ兩殿下ノ御旅行ハ非公式ナルコ  
 トハ承知シ居リタルニ拘ラス御滯獨中ノ汽車、自動車、御旅館等一切ノ準備ヲ整ヘ充分御満足  
 ナル御見學遊ハサル様萬般ノ準備完了シ居リタリ武者小路大使ハ右兩殿下獨逸國御訪問御中  
 止ゾ已ムナキニ至リタル次第ヲ獨逸側ニ傳ヘ其ノ好意ニ對シ深厚ナル謝意ヲ表シタル處先方ニ  
 於テモ充分諒承セル趣ナリ。尤モ兩殿下獨逸御訪問御取止メト成リタルハ尚ニ事情已ムヲ得ザ  
 ル次第ナルモ官殿下ニハ先年御滯歐中、歐洲大陸中獨逸ノミハ御見學ノ御機會無カリシ爲日獨  
 協定成立後ノ今日新興獨逸各般ノ新施設ヲ御見學遊ハサルコトハ御興味多キコトト拜察セラ  
 ルルノミナラス高橋侍醫（倫敦海牙ニ於テ兩殿下御不列ノ際ハ陛下ノ思召ニ依リ常ニ拜診申上  
 ケ居レリ）モ殿下ニハ御旅行ニハ御差支無キ様間モ無ク御健康御回復遊ハサルベキモノト拜察  
 シ居リ又九月六日ヨリ同十三日迄「ナチス」黨大會南獨ニ「ニレンベルグ」ニ於テ開催セラレ  
 「ヒットラー」宰相モ同地ニ滯在スヘキ趣ニテ其ノ節數日間ノ御豫定ニテ同地ニ成ラセラル様

取運ヒ方切望スル旨武者小路大使ヨリ申越セリ。然ル處ニ且歐洲各國御訪問御取止下成リタルコトナラシメテラシメテ御訪問アラセラルルニ於テハ爾餘ノ諸國ニ對シ實際ニ於テ願ルニテリケドナル關係ヲ生スルカ爲宮内大臣ト連絡シ種々協議ヲ重ネタル結果宮殿下ニハ英國御經由御歸朝ノ途次御健康上御差支無キ限リ獨逸國ヲ御通過遊ハサルコトニ、御決定相成タリ殿下ニハ愈九月七日瑞西國御發コソリト下リヒスハイフン、シニセルド、御經由八日伯林御著、二日間同地御滞在、十三日「エナ」御經由「バイロイト」ニ向ハセラレ、十三日「ニルンベルグ」御著、「ヒットラー」宰相ニ御會見遊ハサレタルカ同宰相極メテ鄭重ニ御款待申上ケタリ、殿下ニハ夫レヨリ直チニ漢堡ニ向ハセラレ十五日「ブレ」御經由「フレン」ヨリ「ブレ」號ニ御乗船倫敦ニ向ハセラレ同十五日ニ御安着遊ハサレタルコトナラシメテ、九月十四日「ヒ」宰相宛御禮電御發送アラセラレタル右獨逸側ノ御款待ニ對シ天皇陛下ニハ九月十四日「ヒ」宰相宛御禮電御發送アラセラレタルカ宮殿下ニ於カセラレテモ御乗船ヨリ同宰相御禮電ヲ御發送遊ハサレタル趣ナリ尙妃殿下ニハ九月十一日「グリンデ」御發佛國御經由同十二日倫敦ニ御著遊ハサレタリ

五、伊國御訪問方御招待

九月九日本邦駐伊國大使「アウリチ」外務大臣ヲ來訪シ今回秩父宮殿下ニハ獨逸國御訪問、「ヒットラー」宰相ト御會見遊ハサル趣拜聞セルカ若シ全然伊國ヲ御訪問アラセラレサルニ於テハ伊國宮中ニ於テハ素ヨリ國民一般モ深ク遺憾ニ存スヘキニ付殿下ハ御健康上ノ理由モアルコトナルヘキモ是非一寸ナリトモ伊國ニモ御立寄遊ハサル様取計ラハレ度旨申出タルニ付早速宮内省側トモ協議ノ上最初ノ御豫定ノ如ク印度洋御經由御歸朝遊ハサルニ於テハ他國ハサテ置キ必ス伊國ヘモ御立寄り遊ハサルヘキコトト拜察セララルモ時局ニ鑑ミ英國ヨリ「カナダ」ヲ經テ至急御歸朝ノコトト成リタルカ爲獨逸ハ其ノ巡路ニモ當リ且殿下ニハ嘗テ同國ヲ御訪問遊ハサレタルコト無キカ爲非公式ニ御通過遊ハサレ「ヒ」宰相ニハ其ノ機會ニ御面會遊ハサルル次第ナルノミナラス既ニ御歸朝ノ御旅程モ確定シ居リ此際御旅程ノ御變更ハ乍遺憾不可能ナル旨ヲ答ヘ又在伊大使ニ電訓シ伊國政府ノ諒解ヲ得ル様取計ヒ置キタリ尙秩父宮殿下ニハ先年英國御滞在中大正十五年春全然御旅行ニテ伊國各地ニ御旅行遊ハサレタルコトアリ

六、御歸朝ノ御途次「カナダ」政府ノ御款待

兩殿下ニハ愈「カナダ」御經由御歸朝ノコトニ御決定遊ハサレタルニ付「カナダ」木下臨時代理公使ニ電訓シ兩殿下ニハ兼「カナダ」ニ於テ政府ノ貴賓トシテ總督以下官民ノ款待ヲ享

クサセラレタルハ我皇室ヲ始メ國民ニ於テモ深ク感謝シ居ル次第ナルモ今回兩殿下ニハ御健康  
上ノ理由並ニ時局ニ鑑ミ「カナダ」御經由速カニ御歸朝遊ハサルコトト成リタル結果再々  
「カナダ」政府ヲ煩ハシ帝國政府トシテハ甚ク心苦シキ次第ナルモ此ノ度ノ御旅行ハ全然非公  
式ナルヲ以テ何等御接待等ハ無之様致度モ兩殿下御旅行ノ安全ノ爲御途中ニ於ケル御警衛方ヲ  
依頼スルモノナル旨「カナダ」政府ニ申入レシメ又在留民ニ於テモ目立ツカ如キ御歡迎ヲ避ケ  
シムル様訓令シ置キタリ。然ルニ其ノ後「カナダ」政府ヨリ兩殿下「ケベック」御上陸ヨリ「グ  
クトリア」御乗船迄國賓トシテ御待遇申上度旨申出アリ結局御歸朝ノ際モ「カナダ」政府ノ特  
別ナル款待ヲ受ケサセラルコトト成レリ  
兩殿下ニハ九月十八日「エンプレス・オブ・ブリテン」號ニテ英國御出發二十三日「ケベック」御  
上陸「ナイヤガラ」御見學ノ上十月二日「グクトリア」ニ於テ日本郵船會社汽船氷川丸ニ御  
乗船遊ハサレタリ  
兩殿下「カナダ」御通過ニ際シテハ曩ニ御渡英ノ際ニ於ケルト同様特別列車ヲ運轉セシメ外務  
省員及警官ヲシテ接待並ニ御警衛ノ任ニ當ラシメタルカ非公式御旅行ノコトナルカ爲形式的ノ  
コトハ一切之ヲ避ケ主トシテ御慰安ト御旅行ノ安全ニ注意シ最モ鄭重ニ御接待申上ケタリ

木下臨時代理公使ハ「ケベック」ニ兩殿下ヲ御出迎申上ケ「モンクトリオール」迄隨行、其後「バ  
ンフ」迄ハ金谷理事官ヲシテ隨行セシメ「バンフ」ヨリ「グクトリア」御乗船迄ハ根道領事  
ヲシテ隨行セシメタリ  
七「カナダ」總督ニ對セラルル御謝意  
天皇陛下ニハ十月二日兩殿下カ再ヒ「カナダ」御通過ニ際シ「カナダ」政府ヨリ格別ノ配慮ア  
リタル厚誼ニ對シ深ク御満足ニ思召サレ在「カナダ」木下臨時代理公使ヲシテ總督ニ對シ謝意  
傳達スヘキ旨御沙汰アラセラレタル處右御沙汰ハ特別ノ思召ニ依ルモノニシテ左記ノ如ク解ス  
ヘキモノナル旨内々宮内省式部職外事課長ヨリ申越アリタリ

曩ニ秩父宮同妃兩殿下ノ「カナダ」御訪問ニ際シ總督閣下並ニ官民ノ示サレタル懇情ハ、天皇  
陛下ニ於カセラレ御感銘アラセラルル所ニシテ今次再ヒ兩殿下ノ「カナダ」政府ノ款待至ラサ  
ル無ク又御警衛其ノ他ニ對シ格別ノ配慮ヲ蒙リタルコトヲ聞召サレ其ノ厚誼ニ對シ深ク御満足  
ニ思召サル  
右御沙汰ノ次第ハ兩殿下「カナダ」御辭去ノ後總督ニ傳達ノ豫定ニシテ取急キ木下臨時代理公  
使ヘ電報シ置キタル處總督ハ旅行中ナリシ爲之カ傳達ハ多少遅延セルカ總督官房長ハ十月三十

二日附同臨時代理公使宛書翰ヲ以テ總督ニ於テ右ノ陛下ノ御沙汰ニ對スル至誠ノ謝意ヲ表スルト共ニ「カナダ」カ再ヒ兩殿下ヲ御款待申上ケルヲ得タルハ最モ光榮トスル所ナル旨執奏方依頼アリタル趣申越シタリ右ハ早速宮内大臣ヲ經テ執奏方取計ヒ置キタリ

八、「カナダ」御通過ノ際ニ於ケル御警衛  
 曩ニ兩殿下「カナダ」御通過ノコトニ御決定アラセラルルヤ「カナダ」政府ニ對シ御警衛方特ニ依頼シ置キタルハ前記ノ通りナル處其ノ後在日米樞大使ハ在安土府玉木領事ノ開込トシテ米國ニ於テ兩殿下ニ對シ危害ヲ加ヘ奉ラントスル陰謀アリ其ノ主魁ハ同國ニ於ケル排日運動ノ首領米國人 Russel Hearn ニシテ民國政府ト關係アル者ナル旨爲念電報越セルニ付萬一ノ場合ヲ顧念シ在米大使及在「カナダ」公使ニ電報シ右ノ報道ハ爲念任國政府ニモ傳達シ萬遺漏無キ様措置スベキ旨訓令シ又晚香坡根道領事ニ對シテハ更ニ御乘船水川丸乘客並ニ荷物等ニ關シテ細心注意方申送り置キタリ仍テ今回「カナダ」政府ニ於テハ御召列車ニハ警視一名指導ノ下ニ警官四名(前回ハ二名)ヲ陪乘セシメ又各停車場其ノ他御見學地ニ於テハ隨所ニ警官ヲ配置シ御警衛振極メテ慎重且周到ニシテ頗ル満足スヘキモノアリタル趣ナリ

九、新聞記事ノ取締

二五〇

兩殿下御歸朝ハ途次獨逸御立寄シコトト成リタルハ他國トノ振合モアリ又其ノ後御歸途ノ御警衛上ノ必要モアリ御日程御巡路等ハ詳細ナル發表ヲ爲ササルコトトシ夫々在獨大使及在「カナダ」臨時代理公使ヘモ其ノ趣旨ニテ電訓シ置キタル處宮内省ヨリモ内務省ヲ經テ各新聞ニ注意スルト共ニ直接都下主要新聞ニ對シ左記ノ通達アリタル趣ナリ

秩父殿下御旅行記ニ關シテハ豫測の記事ハ御掲載ナキヤウ曩ニ内務省ヲ通シ御依頼致シアルモ今回殿下ハ御渡英ノ途次獨逸ヲ御經由ニ相成ルコトニ決定シタルヲ以テ自然内外ノ注意ヲ與クニ至ルヘク此ノ際左ノ二點ニツキ御配慮ヲ乞フ次第アリ

一、今回ノ獨逸通過ハ殿下再度ノ御外遊ニ際シ歐洲大戰中未タ御視察ナキハ獨逸ノミナルニテ御靜養地瑞西ヨリ御渡英ノ順路トシテモ適當ナルニヨルモノニシテ何等政治的意味ヲ有セズ純粹ノ御視察ナリ萬一カカル誤解ヲ招クニ於テハ目下機微ノ關係ニアル列國ノ感情ヲ刺戟シ又ハ折角奉迎準備ヲ爲シタルニモ不拘御訪問ヲ取止メタル諸國ノ感情ヲ害スルヲ以テ獨逸御旅行ニ關スル報道ハ最小限度ニ止メ大袈裟ニナラヌヤウ御取扱ヲ得タシ

二、御歸朝ノ經路ニツキテハ主トシテ御警衛ノ見地ヨリ事後ノ報道ニツキテモ御乘船ノ船名及目的地等其ノ後ノ御旅程ヲ豫測セシムル事項ハ掲載セサルヤウ御取扱ヲ得タシ、(但シ最

二五一

終船ニ御乗船後ハ平常ニ復サレテ差支ナシ  
以上ハ外務當局ノ希望ヲ含ミ居ルヲ以テ此ノ際特ニ御諒承ヲ乞フ次第ナリ  
九月七日

十、御帰朝ノ儀  
兩殿下ニ於テ十月十五日御歸朝ノコトト成リタルカ爲御出迎ニ關シテハ御渡英ノ際ニ於ケル御見送同様外交團ニ通牒シ置ケリ  
兩殿下ニハ御豫定通十月十五日御機嫌麗ハシク御歸朝遊ハナレ當日ハ外務省側ヨリハ廣田大臣吉澤亞米利加局長、岸秘書官、鈴木儀典課長ハ横濱迄其ノ他ハ東京驛ニ又外交團側ヨリハ英國大使同大使館陸海軍武官、カナダ臨時代理公使ハ横濱迄其ノ他ハ東京驛ニ夫々御出迎申上ケタリ  
尙ホ兩殿下御歸朝ニ付天皇陛下ニハ十月十六日英國皇帝陛下ニ對シ御禮電御發送アラセラル  
皇帝陛下ヨリ直チニ御答電アリタリ  
第二節 諸外國君主ノ稱號及國名

一、伊國皇帝陛下ノ稱號

伊國ノ「エテオピア」併合後ハ同國皇帝陛下ノ稱號ニ「エテオピア」皇帝ナル文字ヲ加ヘラレタル處本邦ニ於テ右「エテオピア」皇帝ナル文字ヲ公式ニ伊國皇帝陛下ノ稱號ニ加ヘ用ヒラレタルハ昭和十二年一月十八日東京宮城ニ於テ御下付相成タル「アヂス、アベ」駐在野田領事ニ對セラルル御委任狀ニシテ即チ右御委任狀ニ左ノ通記サレタリ  
伊太利國皇帝「エテオピア」皇帝陛下

二、丁抹國皇帝陛下ノ稱號

丁抹國皇帝陛下ノ稱號ハ邦語文章中左ノ通申上タルコト適當ナリト思考スル旨在瑞典栗山公使ヨリ昭和十二年九月三日附機密第二五六號ヲ以テ申越アリタリ  
丁抹國及「アイヌランド」國皇帝「クリスチアーン」第十世陛下  
Sa Majesté Christian X. Roi de Danemark et d'Islande

三、獨逸國ノ國名

獨逸國ノ國名ハ從來帝國大使ノ御信任狀及御解任狀並ニ帝國領事ノ御委任狀ニ於テハ獨逸共和

國 (Reich, Allmand) トシ 御親書類ニ於テハ 獨逸國 (Reich, Allmand) ト成リ居ル處 獨逸例ニ  
 三於テ 共和國ニナル文字ヲ好マサル趣ニテ 從テ 獨逸國ト記スコトトセリ 但新任在獨逸國大使  
 ノ御信任狀及同武者小路大使ノ御解任狀ニシテ 獨逸共和國ト成リ居ルモ 既ニ御署名済ノコトニモ  
 アリ前例ニ依リ 其ノ儘ト爲シ置ケリ (昭和十二年十二月) 宣稱  
 第三節 諸外國ノ吉凶ノ際ニ於ケル取扱振舞  
 第一款 諸外國ノ吉凶ノ際ニ於ケル取扱振舞  
 第二款 諸外國ノ吉凶ノ際ニ於ケル取扱振舞  
 昭和三十二年三月二十一日「アフガニスタン」國ノ新年ニ付 天皇陛下ヨリ 同國皇帝陛下へ御祝  
 電御發送アラセラレタリ  
 十月十五日「アフガニスタン」國皇帝陛下誕辰ニ付 天皇陛下ヨリ 御祝電御發送アラセラレタ  
 リ  
 昭和三十二年五月一日 獨逸國國祭日ニ付 天皇陛下ヨリ 同國宰相へ御祝電御發送アラセラレタリ  
 (御親電御交換ノ協定ニ基クモノ)

昭和三十二年十二月二十六日 元東京帝國大學法學部講師「ヘンリー、テリー」逝去ニ付在紐育井  
 上總領事代理ニ電訓シ大臣ノ弔意ヲ遺族へ傳達セシメタリ  
 昭和十二年二月二十日 米國大統領「フランクリン、デロイド、ルーズヴェルト」氏再ヒ就任ニ付  
 天皇陛下ヨリ 御祝電御發送アラセラレタリ (米國大統領ノ任期ハ從來三月四日ヲ以テ終了開始  
 スルコトト成リ居リタル處 同國憲法改正ノ結果 今回ヨリ一月二十日ヲ以テ終始スルコトト成レ  
 リ)  
 三月八日 元米國國務長官「エリック、ハルト」逝去ニ付在紐育井上總領事代理ニ電訓シ外務大臣  
 ノ弔意ヲ遺族ニ傳達セシメタリ  
 五月 米國「ロックフェラー」(父) 逝去ニ付 齋藤大使へ外務大臣ノ名ニ於テ遺族ニ弔意ヲ表シ又  
 花環壹個ヲ供ヘタリ  
 七月四日 亞米利加合衆國獨立日ニ付 天皇陛下ヨリ 同國大統領へ御祝電御發送アラセラレタ  
 リ  
 「アルゼンチン」國  
 二五五

五月二十五日 「アルゼンチン」國獨立日ニ付 天皇陛下ヨリ同國大統領へ御祝電御發送アラセラルタリ

三五六

昭和十二年十一月十五日 白國皇帝陛下命名祝日ニ付 天皇陛下ヨリ御祝電御發送アラセラルタリ

「ボリツア」國

昭和十三年八月六日 「ボリツア」國獨立日ニ付 天皇陛下ヨリ同國臨時大統領へ御祝電御發送アラセラルタリ（但同國ニ於テハ七月十三日政變發生シ參謀總長「ブッシュ」臨時大統領ニ就任セルカ帝國政府ハ八月二日右新政府ヲ承認セリ）

昭和十一年十二月五日 元北平政務委員長黃郛逝去ニ付在上海帝國總領事ヲシテ外務大臣ノ弔意ヲ遺族ニ傳達セシメタル事

昭和十二年五月二十日 「キニヤ」國獨立日ニ付 天皇陛下ヨリ同國大統領へ御祝電御發送アラセラルタリ

昭和十二年五月十五日 丁抹國皇帝「クリスティアン」第十世陛下御即位第二十五周年祝典ニ付 天皇陛下ヨリ御祝電御發送アラセラルタリ

在瑞典藤井臨時代理公使ニ電訓シ帝國政府ノ名ニ於テ丁抹國政府ニ對シ至誠ノ祝意ヲ表セシメテ又同臨時代理公使ハ丁抹國兼任ナルカ爲招待ヲ受ケタルニ付「ヨーベンハーゲン」ニ出張

臨時代理公使トシテ諸儀式ニ參列セリ

九月二十六日 丁抹國皇帝「クリスティアン」第十世陛下ノ誕辰ニ付 天皇陛下ヨリ御祝電御發送アラセラルタリ

昭和十二年二月十日 「エジプト」國皇帝陛下ノ誕辰ニ付 天皇陛下ヨリ御祝電御發送アラセラルタリ

七月二十九日 「エジプト」國皇帝陛下ノ成年式並ニ即位祝典（皇帝親ラ政務ヲ執ラセラルル重要ナル式典ニテ Accession to Throneト公稱セラレタル）舉行ニ付 天皇陛下ヨリ御祝電御發送アラセラルタリ

三五七

送アラセラレタリ(但御祝品等ハ各國ノ振合ヲモ考慮シ奏請セサルコトトセリ)ハ  
在同國齋藤臨時代理公使ハ同國外務大臣ニ對シ帝國政府ノ名ニ於テ祝意ヲ表セリ  
八月二十八日「エジプト」國皇帝「ファルク」第一世陛下結婚成約祝賀ノ爲 天皇陛下ヨリ御  
親電御發送アラセラレタリ

西班牙國

昭和十二年四月十四日 西班牙國國祭日ニ付 天皇陛下ヨリ同國大統領ヘ御祝電御發送アラセラ  
レタリ

「フィンランド」國

昭和十二年十二月十五日 「フィンランド」國大統領「ペール、エヴィンド、スウィンフト」第七  
十五回誕辰ニ付 天皇陛下ヨリ御祝電御發送アラセラレタリ但本邦駐劄「フィンランド」國  
特命全權公使ヨリ祝典ノ次第正式ニ通知越セルニ付御祝電ヲ奏請スルト共ニ同公使ニ對シ帝國  
政府ノ名ニ於テ祝意ヲ表シ本國政府ヘ傳達方依頼セリ

昭和十二年三月一日「フィンランド」國大統領「キオステイ、カリオ」就任ニ付 天皇陛下ヨリ  
御祝電御發送アラセラレタリ(前例無カリシモ他國トノ振合ニモ鑑ミ奏請セリ)

佛國

昭和十二年六月十八日 元佛國大統領「ガストン、ドットメルダ」逝去ニ付在佛大使ニ電訓シ帝國  
政府ノ名ニ於テ佛國政府ヘ至誠ノ弔意ヲ表セシメタリ

七月十四日 佛國國祭日ニ付

天皇陛下ヨリ同國大統領ヘ御祝電御發送アラセラレタリ

英國

昭和十一年十二月十一日 英國皇帝「ジョージ」第六世陛下即位アラセラレタルニ付同月十三日  
天皇陛下ヨリ御祝電御發送アラセラレタリ尙在英吉田大使ヘ電訓シ陛下竝ニ英國政府ニ對シ帝  
國政府ノ名ニ於テ熱誠ナル祝意ヲ表セシメタリ(本節第二款參照)

十二月十四日 英國皇帝「ジョージ」第六世陛下ノ誕辰ニ付 天皇陛下ヨリ御祝電御發送アラセ  
レタリ

十二月二十六日 英國皇帝皇后兩陛下ノ戴冠式舉行ニ付 天皇陛下ノ御名代「シテ雅仁親王殿下  
(秩父宮殿下)ヲ同國ヘ差遣ハサレ且妃殿下御同伴相成ヘキ旨御沙汰アリタリ但昭和十一年十月  
十九日雅仁親王殿下ヲ英國ヘ差遣サレ且妃殿下御同伴相成ヘキ旨御沙汰アラセラレタル處同國  
皇帝「エドワード」第八世陛下退位ニ付本件ハ自然消滅ト爲レリ(本節第二款參照)

二六〇

昭和十二年三月十七日 英國元外相「ナット・ホーステイン、チェンバレン」逝去ニ付在英大使ニ電訓シ帝國政府ノ名ニ於テ英政府へ又外務大臣ノ名ニ於テ遺族へ夫々深厚ナル弔意ヲ表セシメタリ

五月十二日 英國皇帝皇后兩陛下戴冠式舉行ニ付 天皇 皇后兩陛下ヨリ御祝電御發送アラセラレタリ

尙在英大使ニ電訓シ英國皇室並ニ政府ニ對シ帝國政府ノ名ニ於テ熱誠ナル祝意ヲ表セシメタリ

六月九日 英國皇帝「ジョージ」第六世陛下ノ誕辰祝日ニ付 天皇陛下ヨリ御祝電御發送アラセラレタリ

十一月九日 英國前首相「ラムゼー、マクドナルド」逝去ニ付在英吉田大使ニ電訓シ帝國政府ノ名ニ於テ英國政府へ又外務大臣ノ名ニ於テ遺族へ夫々深厚ナル弔意ヲ傳達セシメタリ尙葬儀ニ際シ外務大臣ノ名ニ於テ花環壹個靈前へ供ヘシメタリ

尙右ニ關シ英國皇帝陛下宛御弔電ヲ奏請セントセルモ本人カ現官ニアラザルコト(但現官ニ在ラサル場合モ大戦關係者ニ關シテハ御弔電御發送アラセラレタル例アリ)及從來本人ハ 天皇

陛下ニ謁見セルコトモ無キカ爲適當ナル前例無ク宮内省側ニ難色アリ又各國ノ振合モ不明ナリ

シカ爲右御弔電ハ奏請セザルコトトセリ

十一月廿五日 希臘國 希臘國王陛下ヨリ 天皇 皇后兩陛下へ同國皇太子殿下ノ結婚成約ヲ報セルル御親電ヲ寄セラレ同日二十九日 天皇 皇后兩陛下ニ之ニ對シ御祝電御發送アラセラレタリ

「イラン」國

昭和十二年三月十五日 「イラン」國皇帝陛下ノ誕辰ニ付 天皇陛下ヨリ御祝電御發送アラセラレタリ

三月二十一日 「イラン」國ノ新年ニ付 天皇陛下ヨリ同國皇帝陛下へ御祝電アラセラレタリ

伊 太 利 國

昭和十二年二月十二日 伊國皇太子殿下第一皇子御誕生ニ付 天皇陛下ヨリ同皇太子同妃兩殿下へ御祝電御發送アラセラレタリ尙在伊大使ヲシテ伊國皇室並ニ政府ニ對シ帝國政府ノ名ニ於テ至誠ノ祝意ヲ表セシメタリ

二六一

二月十九日 「アライズ・アベバ」ニ於テ伊國總督其ノ他顯官遭難重傷ヲ負ヒタルニ付在伊杉村大

使ニ電訓シ帝國政府ノ名ニ於テ伊國政府へ見舞ヲ述ヘシメタリ

七月 伊國專士院長「マルゴニ」侯逝去ニ付帝國政府ノ名ニ於テ伊國政府へ又外務大臣ノ名ニ

於テ遺族へ夫々深厚ナル弔意ヲ表セシメタリ

十一月十一日 伊國皇陛下誕辰ニ付 天皇陛下ヨリ御祝電御發送アラセラレタリ

滿洲 滿洲國

昭和十二年二月二十三日 滿洲國皇帝陛下ヲ誕辰ニ付 天皇陛下ヨリ御祝電御發送アラセラレタリ

五月十八日 滿洲國皇帝皇后兩陛下ハ梨本宮殿下同國御訪問ニ際シ 天皇 皇后兩陛下ヨリ物品

ノ御贈進ヲ受ケラレタルニ付 兩陛下へ御禮電ヲ寄セラレタリ

七月二十八日 北支事變ニ關シ滿洲國皇帝陛下ヨリ 天皇陛下へ御親電ヲ寄セラレタリ

十一月五日 日滿兩帝國間ニ治外法權及南滿洲鐵道附屬地行政權移讓ニ關スル條約締結ニ付滿洲

國皇帝陛下ヨリ 天皇陛下へ御親電ヲ寄セラレタリ(第七節參照)

「メキシコ」國

昭和十二年九月十六日 「メキシコ」國獨立日ニ付 天皇陛下ヨリ同國大統領へ御祝電御發送ア

ラセラレタリ

「ニカラグ」國

昭和十二年一月一日 「ニカラグ」國大統領ノ就任式ニ付在 「メキシコ」公使館書記官大谷彌

七(在「サン、サルヴァドル」領事)ヲシ帝國政府ヲ代表シテ式典ニ參列セシメタリ(但右ニ關

シテ帝國外務大臣ヨリ 「ニ」國外務大臣へ其ノ旨直接電報セリ)

「ノルウェー」國

昭和十二年二月二十一日、諾威國皇太子殿下第一皇子御誕生ニ付在瑞典帝國臨時代理公使へ電訓

シ帝國政府ノ名ニ於テ諾威國皇室並ニ政府ニ對シ至誠ノ祝意ヲ表セシメタリ但我官中ニ於テハ從

來同様ノ場合先方ヨリ御祝電ナカリシ爲御祝電御發送アラセラレス

「ノルウェー」國

昭和十二年二月七日、和蘭國皇嗣「シヨリア」内親王殿下「プリンス、ベルナルド」デ、リッペ、

ビーヌタルフェルド」ト御結婚ニ付 天皇 皇后兩陛下ヨリ同國皇帝陛下へ御祝電御發送アラ

セラレタリ又帝國政府ニ於テハ在蘭山口臨時代理公使ヲシテ至誠ノ祝意ヲ和蘭國政府へ申入レ

二六三

シタタリハ御婚約ノ次第ハ昭和十二年九月八日和蘭國皇帝陛下ヨリ天皇皇后兩陛下宛御親電ヲ以テ御報道アリタルニ付、兩陛下ヨリ直系ニ皇帝陛下へ御祝電御發送アラセラレタリ尙在蘭臨時代理公使ヲシテ帝國政府ノ祝意ヲ蘭國政府ニ傳達セシメタリ。

天皇陛下ニハ内親王殿下へ勳一等寶冠章ヲ御贈進遊ハサレ、右ハ一月一日同臨時代理公使ヨリ殿下へ捧呈セリ。

八月三十日、和蘭國皇帝「ウイアルヘルミナ」陛下ノ誕辰ニ付、天皇、皇后兩陛下ヨリ御祝電御發送アラセラレタリ。

昭和十二年七月二十八日、「ベルギー」國獨立日ニ付、天皇陛下ヨリ同國大統領へ御祝電御發送アラセラレタリ。

八月十一日、「ルーマニア」國國獨立日ニ付、天皇陛下ヨリ同國大統領へ御祝電御發送アラセラレタリ。

昭和十二年十月十六日、「アルメニア」國皇帝陛下誕辰ニ付、天皇陛下ヨリ御祝電御發送アラセラレタリ。

昭和十二年十二月二十二日、「サルヴァドル」國ニ強震アリタルニ付、同國大統領「サルヴァドル」大谷領事ニ電訓シ帝國政府ノ名ニ於テ同國政府へ至誠ナル見舞ノ意ヲ表セシメタリ。

九月十五日、「サルヴァドル」國獨立日ニ付、天皇陛下ヨリ同國大統領へ御祝電御發送アラセラレタリ。

昭和十二年九月二十日、暹羅國皇帝「アナンタマセドシ」陛下ノ誕辰ニ付、天皇陛下ヨリ御祝電御發送アラセラレ、又山縣式部官ヲ勅使トシテ在本邦同國公使館ニ差遣ハサレタリ。

昭和十二年六月十七日、瑞典國皇帝「グスタフ」第五世陛下ノ誕辰ニ付、天皇陛下ヨリ御祝電御發送アラセラレタリ。

昭和十二年九月十四日、前「チコスロヴァキア」國大統領「ドクトル、トーマス、ゲー、マサリック」逝去ニ付、天皇陛下ヨリ同國大統領へ御弔電御發送アラセラレ、九月二十二日國葬ニ際シテハ在同國藤井公使ヲ、天皇陛下ノ御使トシテ差遣ハサレ、又柩前へ御花環一個御供へ遊ハサレタリ。

尚藤井公使ニ電訓シ帝國政府ノ名ニ於テ「チリ」國政府ヘ又外務大臣ツ名ニ於テ遺族ヘ夫々  
深厚ナル用意ヲ表シタタリ  
十月二十八日「チリ」國國祭日ニ付 天皇陛下ヨリ同國大統領ヘ御祝電御發送ア  
ラセラレタリ

十月二十九日 土耳其國共和宣言日ニ付 天皇陛下ヨリ同國大統領ヘ御祝電御發送アラセラレタ  
リ

英國皇帝「エドワード」第八世陛下ノ戴冠式ニ關シテハ一九三六年五月二十八日詔書煥發セラ  
レ昭和十二年五月十二日之ヲ御舉行ノコトニ御沾定相成タリ趣ヲ以テ本邦駐劄同國大使「サー」  
「ハート」クライヴヒハ昭和十二年十月七日附外務大臣宛公信ヲ以テ右御沾定ノ次第ヲ通報ス  
ルト共ニ戴冠式ニ際シテ天皇陛下ノ御名代ヲ御差遣アラセラルコトモ相成ハ皇帝陛下ニ於  
テ欣快トセラレハキニ付 天皇陛下ノ御都合相伺ヒ申スヘキ様本國外務大臣ヨリ勅命ニ基キ  
訓令シ來リタル旨竝ニ若シ 天皇陛下ニ於カセラレ右御招待ヲ御承諾アラセラル場合ニハ準  
備ノ都合モアツ何方ヲ御差遣遊ハナルヘキヤ至急承知致度旨同大臣ヨリ併セテ申越アリタル趣  
通知越ヒリ仍早速之ヲ宮内大臣ヘ傳達スルト共ニ其ノ旨内閣總理大臣ヘモ通牒シ置キタリ  
右戴冠式御舉行ニ付 天皇陛下ノ御名代トシテ雅仁親王殿下（秩父宮殿下）ヲ英國ヘ差遣ハサ  
レ且妃殿下御同伴相成ヘキ旨十月十九日御沙汰アラセラルタルニ付其ノ旨早速英國大使ニ通報  
スルト共ニ右御沙汰ノ次第竝ニ兩殿下ニハ昭和十二年四月勿々加奈陀經由御渡英ノ御豫定ナル  
旨英吉田大使ヘ電報セリ

斯クテ宮内省ニ於テハ兩殿下御渡英ニ關シ各般ノ準備ヲ進マラレ在英大使トモ協議シ上倫敦ニ  
於ケル兩殿下ノ御旅館ハ英國政府側ニ於テ豫テ國費用トシテ留保シ居リタル「ハインド」パーク  
ホテルニ御決定相成又御滯英中ノ諸準備竝ニ「プロングラム」作成ニ關シテモ宮内省ノ希望ニ  
基キ在英大使ニ電訓シ夫々處理セシメタリ  
尚兩殿下ノ御旅行ニ關シテハ宮家ニ於テ「トーマス」社ニ命シ諸事取扱ハシメラレタ  
リ

二、「エドワード」第八世陛下退位並ニ新帝即位

然ルニ昭和十二年十二月ニ入リ「エドワード」第八世陛下ト「シンプソン」夫人トノ御結婚問題ニ關シ英國朝野ニ反對多カリシ趣ニテ同陛下ノ退位説傳ヘラルニ至リ事態極メテ重大ト成リタルカ爲同月四日首相「ボールドウィン」陛下ニ於テ本問題ニ關シ新聞ノ傳フル所ニ依リ陛下ノ御結婚遊ハサルル婦人ハ必スシモ皇后ト成ララルヲ要セサルモソナリトノ説アルモ右ハ憲法上根據無キ所ニシテ所謂「Morganatic Marriage」英國法ニ規定無ク皇帝ニ嫁セララル婦人ハ當然皇后ト成ララルモノニシテ之ヲ避クル爲ニハ特別ノ立法ヲ要スル處政府トシテハ如斯法案ヲ提出スル用意無ク又此ノ種法案ニ關シテハ自治領全部ノ同意ヲ要スルナルカ其ノ同意ノ得難キコトヲ確メタリト聲明シ茲ニ皇帝陛下ノ御結婚問題ハ公然政治問題ト成リ五日ニ至リ皇帝陛下ニハ當分一切ノ公式「エンゲイジメント」ヲ御取消相成リタル旨發表セラレタリ、其ノ後同月七日首相ハ下院ニ於テ政府ノ本問題ニ對スル嚴正ナル態度ニ關シ聲明スル所アリタルカ同十日皇帝陛下ニ退位並ニ「ジョージ」公殿下王位繼承ノ詔勅ヲ下シ給ヒ首相ハ之ヲ下院ニ於テ朗讀シ同日直チニ右詔勅ニ效力ヲ生セシムル法律案ヲ下院ニ提出セルカ右法律案ハ同十一日議會ヲ通過シ陛下ニハ直チニ之ヲ御裁可アラセラレ茲ニ英國王位ノ繼承ヲ完了セリ

本邦駐劄英國大使ハ同月十三日附外務大臣宛公信ヲ以テ「エドワード」第八世陛下御退位ノ結果「ジョージ」公殿下ニハ十二月十日英國皇帝ノ帝位ニ即カセラレ「ジョージ」第六世ト稱セララル旨通知越セルニ付依例直チニ右ノ次第ヲ内閣總理大臣經由上奏スルト共ニ之ヲ宮内大臣、陸軍海軍大臣ニ通牒セルカ「天皇陛下」ニハ早速「ジョージ」第六世陛下宛御祝電御發送アラセラレタリ尙在英吉田大使ニ對シテハ帝國政府ノ名ニ於テ新帝陛下並ニ英國政府ニ對シ至誠ヲ祝意ヲ表スベキ様電訓シ又英國大使ニ對シテハ其ノ公信ニ對シ回答ヲ發シ右御祝電並ニ帝國政府表祝ノ次第ヲ通知スル共ニ改メテ祝賀ノ意ヲ表シ又新帝陛下ノ康寧ト御治世ノ長久ナラシムコトヲ懇禱シ併セテ先帝陛下ノ福祉ヲ祈念スル旨申送り置ケリ「エドワード」第八世陛下退位トシ「ジョージ」第六世陛下踐祚ノ次第ハ他方本邦駐劄「カナダ」公使ヨリモ通知アリタリ其ノ後先帝陛下ニ對シテハ勅令ニ依リ「His Royal Highness the Duke of Windsor」ヲ稱號ヲ賜アリタリ又「ジョージ」第六世陛下並ニ皇后陛下下戴冠式ニ對スル御招待新帝陛下並ニ皇后陛下下戴冠式ハ先帝御退位ニモ拘ラズ豫定ノ通昭和十二年五月十二日ニ御舉行遊ハサルコトト成リタル處義ニ英國皇帝陛下下戴冠式ニ付御名代トシテ秩父宮殿下ヲ英國へ被差遣且妃殿下御同伴相成ヘキ